# 令和６年度　自　己　評　価　計　画　書

石川県立小松北高等学校

| 重点目標 | | 具体的取組 | | 主担当 | 現　　状 | 評価の観点 | 実現状況の達成度判断基準 | 判断基準 | 備　　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | **教職員は、多様な生徒・保護者に対応できるよう様々な研修等で指導力を向上させ、生徒の「確かな学力」の定着を目指す。** | ① | 研修等で生徒理解を深め指導力の向上を目指す。また少人数授業でのきめ細かな指導を行い「確かな学力」の定着を図る。 | 教務課<br>保健厚生課<br>各教科 | 興味関心を喚起しながら、基本的な学習事項の定着を重視した丁寧な指導を行い、基礎学力の向上を図っている。また、多様な生徒に対して個々に十分に配慮しながら、生徒の到達点を設定するなど一人一人に応じたきめ細かな指導も行っている。 | 【満足度指標】<br>きめ細かで分かりやすい授業であるため、授業内容が理解できる。 | 授業内容が理解できていると思う生徒の割合が<br>Ａ　９５％以上である<br>Ｂ　８５％以上である<br>Ｃ　７５％以上である<br>Ｄ　７５％未満である | Ｃ、Ｄの場合は各教科の評価内容を全員で検討し、次年度への方策を探る。 | 生徒対象に年２回調査する。 |
| | | | | | | 【努力指標】<br>研修等に積極的に参加し、生徒理解を深め、指導力向上につなげる。 | 様々な研修等を積極的に活用し、指導力向上ができたと答えた教員の割合が<br>Ａ　９５％以上である<br>Ｂ　８５％以上である<br>Ｃ　７５％以上である<br>Ｄ　７５％未満である | Ｃ、Ｄの場合は改善策を検討する。 | 教員対象に年２回調査する。 |
| | | ② | 主体的・対話的で深い学びを目指す。 | 教務課<br>各教科 | おとなしい生徒や控えめな生徒が多い。学校での教育活動全体を通して、「意見」や「発言」の機会をこれまで以上に設けている。 | 【努力指標】<br>発表や討議など生徒が主体的に活動する授業改善に取り組む。 | 自分の考えや意見を意識して発言や文章で表現しようとしていると答えた生徒の割合が<br>Ａ　９０％以上である<br>Ｂ　８０％以上である<br>Ｃ　７０％以上である<br>Ｄ　７０％未満である | Ｃ、Ｄの場合は各教科の評価内容を全員で検討し、次年度への方策を探る。 | 生徒対象に年２回調査する。 |
| | | ③ | 生徒の興味・関心・理解度を向上させる工夫を行う。 | 教務課<br>各教科 | ICTを効果的に利活用して、分かりやすい授業となるように、各教科で定期的に研修を行っている。 | 【満足度指標】<br>授業の中で、生徒の興味・関心・理解度が高まる取り組みがなされている。 | 先生方は絵や写真の提示や一人一台端末を効果的に使うなど、教え方を工夫していると答えた生徒の割合が<br>Ａ　９５％以上である<br>Ｂ　８５％以上である<br>Ｃ　７５％以上である<br>Ｄ　７５％未満である | Ｃ、Ｄの場合は改善策を検討する。 | 生徒対象に年２回調査する。 |
| | | ④ | 授業規律の徹底を図り、積極的に授業に参加するようにする。 | 教務課<br>生徒指導課<br>各教科 | 多様な生徒の状況に配慮しながら、生徒の意欲を引き出す授業の工夫を積極的に行っている。 | 【努力指標】<br>生徒が積極的に授業に参加している。 | 授業に積極的に取り組んでいると答えた生徒の割合が<br>Ａ　９５％以上である<br>Ｂ　９０％以上である<br>Ｃ　８５％以上である<br>Ｄ　８５％未満である | Ｃ、Ｄの場合は改善策を検討する。 | 生徒対象に年２回調査する。 |

| | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 2 | **生徒が主体となる活動を充実させ、基本的生活習慣の確立と社会性の向上を目指す。** | ① | 学校行事等に積極的に参加させることにより、生徒同士が共同で取り組む機会を設け、コミュニケーション能力の向上を目指す。 | 生徒会課<br>全職員 | 対人関係が苦手な生徒が多いため、自ら進んで集団に交われない生徒が多い。仲間意識やコミュニケーションが取りやすい環境構築に向け、教職員が積極的に関わっている。 | 【満足度指標】<br>学校行事や生徒会行事等に積極的に参加する。 | さまざまな行事に積極的に参加し、友人との関係を深めることができたと答えた生徒の割合が<br>Ａ　９０％以上である<br>Ｂ　８０％以上である<br>Ｃ　７０％以上である<br>Ｄ　７０％未満である | Ｃ、Ｄの場合は改善策を検討する。 | 生徒対象に年２回調査する。 |
| | | ② | 来校者及び教員に対してしっかりとした挨拶ができるようにする。また、地域の方々と交流する機会を増やし、社会の一員であることを体感させる。 | 生徒会課<br>生徒指導課<br>全職員 | 対人関係が苦手な生徒や大人しい生徒が年々増加している。そこで、積極的に教職員から挨拶することで、コミュニケーションの大切さを再認識させている。 | 【努力指標】<br>登下校時や必要なときに、自らすすんで挨拶ができる。 | 来校者及び職員に対し自らすすんで挨拶をしていると答えた生徒の割合が<br>Ａ　９０％以上である<br>Ｂ　８０％以上である<br>Ｃ　７０％以上である<br>Ｄ　７０％未満である | Ｃ、Ｄの場合は改善策を検討する。 | 生徒対象に年２回調査する。 |
| | | ③ | 教育活動を通して、生徒が安心して学校生活を送ることができる環境作りや、自己肯定感が育めるよう、校内環境の充実を図る。 | 生徒指導課<br>全職員 | いじめは許されないと理解してはいるが、幼い言葉で相手を傷付けてしまう生徒が散見される。「相手の気持ちを推し量った行動」について、いろんな機会を通じて、理解させている。 | 【努力指標】<br>生徒が悩みを抱え込まず、さらに風通しのよい学校づくりをめざす。 | いじめ防止の取組の中で、弱いものいじめや卑怯な振る舞いを許さない指導を常に心がけていると答えた教員の割合が<br>Ａ　９５％以上である<br>Ｂ　８５％以上である<br>Ｃ　７５％以上である<br>Ｄ　７５％未満である | Ｃ、Ｄの場合は改善策を検討する。 | 教員対象に年２回調査する。 |
| | | | | | | | 「いじめは許されないこと」と理解し、相手の気持ちを推し量った行動を意識している生徒の割合が<br>Ａ　９５％以上である<br>Ｂ　８５％以上である<br>Ｃ　７５％以上である<br>Ｄ　７５％未満である | Ｃ、Ｄの場合は改善策を検討する。 | 生徒対象に年２回調査する。 |

| | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 3 | **授業や進路行事、個人面談等を通して、早い時期から進路意識や自己肯定感を高め、望ましい勤労観、職業観を育成し、進路実現を目指す。** | ① | 授業や進路行事、個人面談等の様々な教育活動を通して、進路意識や自己肯定感の向上や望ましい勤労観・職業観を啓発する。<br>またキャリアパスポートの活用により進路目標を決定させ、その実現に向け意欲的に努力するよう働きかける。 | 進路指導課<br>全職員 | 進路意識の低い生徒が多く、進路に向けた準備が遅れる生徒が目立つ。早い時期から自己理解を深化させることにより、能力や適性を客観的に理解させて、進路意識の高揚を図っている。 | 【努力指標】<br>授業や個人面談を通して積極的に進路意識を啓発する。 | 授業や進路行事・個人面談等を通して、生徒の進路意識や自己肯定感を高める働きかけの工夫を行った教員の割合が<br>Ａ　９５％以上である<br>Ｂ　８５％以上である<br>Ｃ　７５％以上である<br>Ｄ　７５％未満である | Ｃ、Ｄの場合は改善策を検討する。 | 教員対象に年２回調査する。 |
| | | | | | | 【満足度指標】<br>生徒が早期に進路目標を立て、実現に向け努力する。 | 授業や進路行事・個人面談等を通して、進路意識や自己肯定感が高まったと答えた生徒の割合が<br>Ａ　８０％以上である<br>Ｂ　７０％以上である<br>Ｃ　６０％以上である<br>Ｄ　６０％未満である | Ｃ、Ｄの場合は改善策を検討する。 | 生徒対象に年２回調査する。 |
| | | ② | 一人一人の生徒に目を向けた指導を通して、進路実現を図る。 | 進路指導課<br>全職員 | 様々な進路行事を通して個々の生徒の適性と希望を捉えながら、進路実現に向けて取り組んでいる。また、外部機関と連携しながら、多様な生徒達が将来のビジョンを描くことができるようにしている。 | 【満足度指標】<br>進路実現を果たすため、自己肯定感を高める取組を行う。 | 「先生は自分のことをよく理解して、進路について適切なアドバイスをしてくれる」と答えた生徒の割合が<br>Ａ　９０％以上である<br>Ｂ　８０％以上である<br>Ｃ　７０％以上である<br>Ｄ　７０％未満である | Ｃ、Ｄの場合は改善策を検討する。 | 生徒対象に年２回調査する。 |
| | | | | | | 【成果指標】<br>適切な指導を通して生徒の進路実現を果たす。 | 進学・就職を希望している卒業生の進路決定率が<br>Ａ　９０％以上である<br>Ｂ　８０％以上である<br>Ｃ　７０％以上である<br>Ｄ　７０％未満である | Ｃ、Ｄの場合は改善策を検討する。 | 年度末に調査する。 |
| 4 | **ワークライフバランスの推進という観点から、業務の精選および効率化を進める。** | ① | 校長が示すビジョンとリーダーシップのもと、全教職員が組織的に協力し合いながら学校運営がなされている。 | 全職員 | 各課・各学年の連携をさらに密にするとともに、会議の効率化や業務の平準化を行い、各教員が生徒と向き合う時間確保に努めている。 | 【努力指標】<br>めざす学校像についての教職員の共通理解のもと学校運営がなされている。 | 業務ごとにスケジュール管理を的確に行い、効率化を図るとともに、生徒や保護者と向き合う時間にあてている教職員の割合が<br>Ａ　９５％以上である<br>Ｂ　８５％以上である<br>Ｃ　７５％以上である<br>Ｄ　７５％未満である | Ｃ、Ｄの場合は改善策を検討する。 | 教員対象に年２回調査する。 |